

個別避難計画 記載例 「内水氾濫」について

①内水氾濫とは

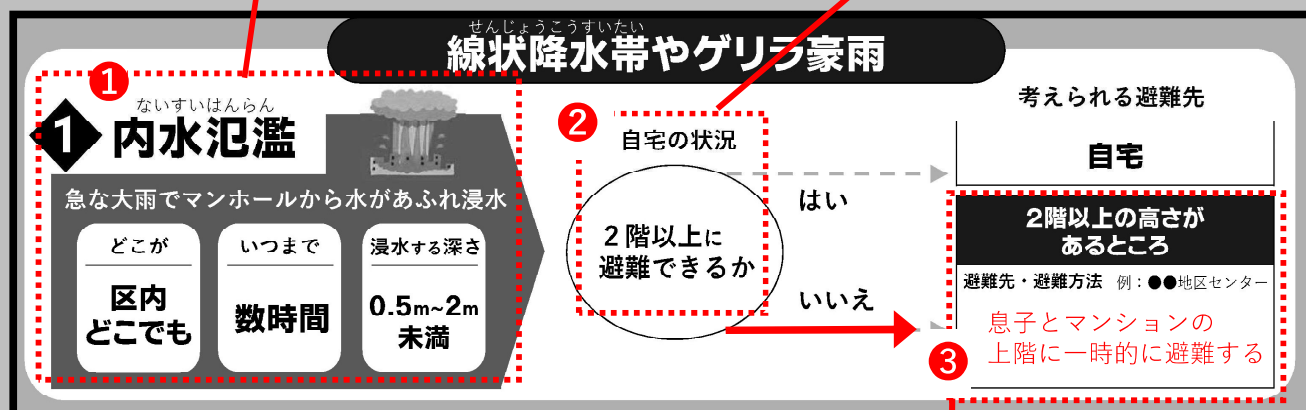
内水氾濫とは、線状降水帯等による急な大雨により、雨水が排水できなくなり、マンホール等から雨水があふれだし、道路や住宅が浸水する現象です。

②自宅の状況

内水氾濫は50cmから最大で2 mの高さまで水が来ますが、数時間で引く想定です。

(裏面参照)

よって、2階以上の高さがあるところに移動できれば、安全を確保することが可能です。



★自宅への避難（在宅避難）について

氾濫の可能性があるとき、家にいることが避難の方法として役立ちます。家にいる避難は、避難中のトラブルを避けられたり、慣れた自宅で過ごす方が安心感がある等のメリットがあります。

しかし、家にいる避難をする前に、自宅の浸水する深さや、いつまで浸水するかをハザードマップで確認することが大切です。

また、自宅の備蓄品を準備したり、自分や家族の健康状態をチェックすることも必要です。

③ 2階以上の高さがあるところ

自宅で2階以上に避難できないときは、一時的な避難先を見つける必要があります。

内水氾濫マップ

想定した大雨の規模は、平成12年9月の東海豪雨です
(総雨量589mm、時間最大雨量114mm)

1時間あたり50mmを超える大雨が長く続くと、下水の処理能力を超えてしまい、マンホールや排水溝等から水があふれる「内水氾濫」が発生するおそれがあります。「内水氾濫」は河川の氾濫と異なり、数時間程度で浸水は解消します。「内水氾濫」が起きるような大雨が続いている場合に、地下や1階にしている場合には、2階以上に避難しましょう。

